

再評価チェックリスト

1 事業概要

事業の名称	東京都計画道路幹線街路外郭環状線の2		評価該当要件	10年間継続	1回目
実施主体	東京都(建設局)	事業所管部署	三環状道路整備推進部整備推進課		
都市計画決定(当初)	昭和41年	事業認可年度(当初)	平成24年度	事業期間: H24年度~H32年度	
都市計画決定(最新)	昭和41年	事業認可年度(最新)	令和2年度	事業期間: H24年度~R12年度	
事業箇所	練馬区石神井町八丁目 ~同区東大泉二丁目		事業規模	評価対象区間延長 1.0km	
事業概要	<p>「東京都計画道路幹線街路外郭環状線の2」(以下、「外環の2」という。)は、世田谷区北烏山五丁目(東八道路)から練馬区東大泉二丁目(目白通り)に至る延長約9kmが、都内の都市計画道路ネットワークの一部として、昭和41年に東京外かく環状道路(以下、「外環」という。)とともに都市計画決定されている。</p> <p>本事業区間は練馬区石神井町八丁目から同区東大泉二丁目に至る延長1.0kmの区間である。本区間の整備により、交通の円滑化が図られるとともに、歩行者の安全が確保される。避難道路としての機能が確保され、地域の安全性・防災性が向上する。</p> <p>また、無電柱化・植栽帯等の整備を行うことにより、快適で安全な歩行者空間、良好な都市景観が創出される。</p>				

2 社会経済情勢等の変化(事業の必要性等に関する視点)

社会経済情勢等の変化 (認可時点から変化がある場合は変化・変更内容欄に記載)													
(社会経済情勢の変化)													
<p>本路線周辺の平成27年度の現況交通量は、平成22年度と比較して減少。</p> <p>現況自動車交通量(道路交通センサスによる)</p> <table border="1"> <tr> <td>【土支田通り】</td> <td>【目白通り】</td> <td>【大泉街道】</td> </tr> <tr> <td>H22年度 12,684台/日</td> <td>H22年度 25,158台/日</td> <td>H22年度 8,724台/日</td> </tr> <tr> <td>H27年度 10,921台/日</td> <td>H27年度 23,294台/日</td> <td>H27年度 7,255台/日</td> </tr> <tr> <td>⇒1,763台/日減少</td> <td>⇒1,864台/日減少</td> <td>⇒1,469台/日減少</td> </tr> </table>		【土支田通り】	【目白通り】	【大泉街道】	H22年度 12,684台/日	H22年度 25,158台/日	H22年度 8,724台/日	H27年度 10,921台/日	H27年度 23,294台/日	H27年度 7,255台/日	⇒1,763台/日減少	⇒1,864台/日減少	⇒1,469台/日減少
【土支田通り】	【目白通り】	【大泉街道】											
H22年度 12,684台/日	H22年度 25,158台/日	H22年度 8,724台/日											
H27年度 10,921台/日	H27年度 23,294台/日	H27年度 7,255台/日											
⇒1,763台/日減少	⇒1,864台/日減少	⇒1,469台/日減少											
(関連する他事業等の進捗状況の変化)													
【東京外かく環状道路(関越~東名)】													
平成21年5月: 整備計画決定・事業化													
平成26年3月: 大深度地下使用の認可													
平成27年6月: 都市計画事業承認及び認可													
令和 3年3月: 都市計画事業変更承認及び認可													
(認可期限 令和12年度末)													

3 事業の投資効果(事業の必要性等に関する視点)

定量的効果 B/C	1.2	
現在価値化総便益額(B)	101.4億円	現在価値化総費用額 85.5億円
走行時間短縮便益	94.7億円	事業費 74.9億円
走行経費減少便益	8.0億円	維持管理費 10.6億円
交通事故減少便益	-1.3億円	
定性的効果		
<交通>	・交通渋滞の解消 ・物資流動円滑化への寄与 ・迂回交通の減少	<<らし>> 土地利用の転換・高度化 ・交通不便地域の解消 ・商業・産業の活性化
<景観>	・都市景観の向上	<安全> 交通事故の減少 ・バリアフリー化 ・自転車や歩行者のための空間確保
<防災>	・緊急車両の走行 ・延焼遮断 ・災害時の避難路の確保 ・消防活動困難地域の解消	<その他> 外環アクセス機能

4 事業の進捗状況(事業の必要性等に関する視点)

事業費の執行状況 (R3年度末時点)			
	用地費	工事費	合計
全体事業費	5,210百万円	1,629百万円	6,839百万円
執行済額	3,959百万円	51百万円	4,010百万円
(執行率)	76.0%	0.0%	58.6%
用地取得状況 (R3年度末時点)			
取得予定面積(A)	既取得面積(B)	用地取得率(B/A)	
7,629㎡	6,047㎡	79.3%	
一定期間を要した背景、地元の理解・協力の状況			
用地は約80%取得済であるものの、外環本線と重複しているため整備が困難。一部地権者からの協力を得られず、時間を要している。			
事業の進捗状況・残事業の内容			
用地は約80%取得済であり、残る未取得用地についても早期取得を目指し、折衝を進める。			

5 事業の進捗の見込みの視点

事業の実施のめど、進捗の見通し等
<ul style="list-style-type: none"> ・残る未取得用地についても早期取得を目指し、折衝を進める。 ・外環事業者とより一層連携を強化し、早期の整備を目指す。

6 コスト縮減や代替案立案等の可能性の視点

コスト縮減や代替案立案等の可能性
(新工法の採用など)
<ul style="list-style-type: none"> ・一般的な街路築造工事であるため、施工にあたって、新工法、施設規模等を見直す可能性は少ないが、低炭素(中温化)アスファルト混合物など環境に配慮した製品や工法を採用していく。 ・無電柱化にあたっては、東京都無電柱化計画(R3.6改定)を踏まえ、新材料等を積極的に活用し、コスト縮減に取り組む。
その他、日々の事業執行におけるコスト縮減等の取組み
<ul style="list-style-type: none"> ・施工にあたっては、建設発生土の再利用や再生材の使用を行っていく。

7 対応方針(原案)

総合評価	<p>(事業の必要性等に関する視点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当該地域における南北方向の交通の円滑化が図られる。 ・住宅地に侵入する通過交通の排除やゆとりある歩道整備により歩行者・自転車の快適性・安全性が向上する。 ・延焼遮断帯の形成や震災時の緊急車両の通行確保等により地域の防災性が向上する。 ・無電柱化や街路樹の植栽により良好な都市景観が創出される。 <p>(事業の進捗の見込みの視点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・用地は約80%取得済みであり、残る未取得用地についても早期取得を目指し、折衝を進める。 ・外環事業者とより一層連携を強化し、早期の整備を目指す。 ・外環の2は、交通の円滑化、地域の防災性の向上、良好な都市景観の創出、外環アクセス機能確保の観点から、事業の必要性が高く、早期の効果発現を図ることが適切。 ・中止の場合は、事業効果を発現できないだけでなく、これまでの投資に見合った整備効果も得られなくなる。
対応方針(原案)	継続